

鹿島

第117号

2019年4月1日

鹿児島県文化協会

発行人 原口 泉
鹿児島市山下町5-3
県文化センター内
TEL 099-223-3123

50周年記念特集号



作者 吉村 英彦
 画題 抱擁 S50 画材 ミクストメディア
 メッセージ 音楽的要素を生かしながら、愛をテーマに描きました。
 所属 鹿児島独立美術協会 鹿児島県美術協会会員
 勤務先 奄美市立小宿中学校 奄美市名瀬大熊町在住

1965年生まれ 2012年鹿屋市美術展：第30回記念大賞 2013年福岡県田川市「英展」
 2015年吉井淳二記念展：招待作家賞 第71回南日本美術展：第21回（吉井賞欧州美術留学）
 2017年4月～2018年3月欧州美術留学（フランス）2019年AMAMI市美展：奄美市美展賞

文化協会50周年記念号に寄せて

鹿児島県文化協会会長

原口 泉



年に創刊し、117号に至っています。

鹿児島県文化協会は、今年創立50年を迎えます。昭和44(1969)年、25の文化団体からはじまった県文化協会ですが、現在は98団体が加盟しております。翌、昭和45(1970)年に鹿児島県内で文化協会を設立しているのは14市町村に過ぎませんでしたが、現在は43市町村が文化協会を設立し、日々文化振興のために活動していただいています。また、平成23(2011)年からは県内各市町村文化協会や文化団体の活動成果を発表する場として「県民文化フェスタ」を開催しております。今年、9月1日に薩摩川内市で、10月6日に鹿児島市で行われます。本誌『文化かごしま』も昭和51(1976)

このように、鹿児島県文化協会は50年という長きにわたり、県内各地の皆様に支えられておりますこと、感謝申し上げます。また、各市町村の文化協会と文化団体と共に、鹿児島の文化活動の中心的な役割を担ってきた歴代の事務局に携われた方々にもお礼申し上げます。

本年は50周年を記念しまして、シンポジウムも計画しております。コーディネーターにNPO法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会代表理事の東川隆太郎様、パネリストに屋久島町文化協会会長野口真由美様、奄美市文化協会会長山元孝子様、霧島市文化協会会長永山作二様をお迎えします。鹿児島県尺八連盟、鹿児島県箏曲会による芸術鑑賞も予定しております。2019年6月8日(土)14時30分、鹿児島市民文化ホール4階市民ホールにおいて行われます。多くの方のご来場

を心よりお待ちしております。

2015年に行われた第30回国民文化祭は、離島を含めた鹿児島県のすべての地域で開催されました。南北600キロ、東西230キロそれぞれの地域に伝わる伝統文化が根付いています。歴史をひもとくと、昭和20年終戦直後の貧困と飢餓の中で、市来町大里の七夕踊りが復活しました。文化の力が戦後復興に役立つことは銘記すべきことだと思います。この歴史性と文化の多様性こそが、鹿児島の魅力です。鹿児島県文化協会の加盟団体には、能楽や茶道など伝統的な文化活動を行っている団体や、演劇やバレエといった若手が活躍している団体など様々です。今後さらなる幅広い分野の文化が花開くことを願っています。

近年、マンガやアニメをはじめとした日本のサブカルチャーが海外で人気を博しています。鹿児島でもサブカルチャーを盛り上げる動きがあり、全国から漫画やイラストを募集して審査をする「かごしま漫画クロデミー賞」は、今年度で第6回目を迎えました。鹿児島の黒牛、黒豚、黒さつま鶏、黒酢など鹿児島の「黒

文化」を題材と作品が集まりました。このようなサブカルチャーにも鹿児島の文化活動にどんどん参加していただきたいです。

これから文化協会100周年に向けて、さらなる鹿児島の文化振興につながりますよう、協会をあげて全力を尽くしていく所存です。一緒に鹿児島の文化を日本に、世界に発信していきましょう。

鹿児島県文化協会名誉会長

鹿児島県知事

三反園 訓



鹿児島県文化協会創立50周年を心からお祝い申し上げます。

鹿児島県文化協会におかれましては、昭和44年に設立されて以来、長年にわたり本県の文化行政の推進に多大な御貢献をいただいていることに、感謝申し上げます。

また、原口会長のもと、県民の創造的な文化活動を支援するとも

に、各市町村文化協会及び各種文化団体相互の連携交流を図られ、「県民文化フェスタ」を開催されるなど、本県の文化の振興に寄与されていることに對しまして、深く敬意を表します。

県文化協会におかれましては、創立50周年を契機に、今後さらに、文化芸術活動の活性化や地域文化の継承などに取り組まれますよう期待しております。

鹿児島県におきましては、本年4月から新たに、「文化スポーツ局」を設置し、県民の文化やスポーツに対する親しみや愛着を深め、文化等を通じた交流人口の拡大を図ることとしております。

今後とも、「文化の薫り高いふるさとかごしまの形成」に向けて、文化芸術の振興をより一層推進してまいりますので、皆様の御支援・御協力をお願いいたします。

終わりに、鹿児島県文化協会のますますの御発展並びに関係の皆様様の御健勝・御活躍を祈念いたします。

皆で築こう、 鹿児島県の文教的風土

鹿児島県文化協会顧問

二見 剛史



鹿児島県文化協会創立50周年、誠におめでとうございます。前史を繙きますと、昭和30年代に県ではフランスの永久教育をモデルに「総合社会教育」が提唱されており、本会は昭和49年民間主導団体に改組、山根銀五郎会長のもと正式に発足し今日に至っているわけです。全県下各種各様の活動を3年おきに、文化年鑑として刊行、全日本文化集会や国民文化祭への積極的参加等で全員の結束を深め、平成4年には市町村文化協会加入を達成し全国から羨ましがられたものです。その間、県でも文化面の行政改革を実施しながら私共を導いて下さいました。

私が県文化協会の事務局長に就任したのは20周年の頃ですが、役員団の

一人として全国各地を飛びまわりながら、県民文化祭をスタートさせたり、九州沖縄文化団体連絡会議にも深くかわりました。国民文化祭鹿児島大会の誘致では県議団の御協力を得て文化庁交渉にも尽力、どうやら目途が立ちましたので、山根精神をよく理解されている熊副穰氏に後事委ね勇退した次第でした。少し難聴も出てきたので、原口泉先生の現会長推挙のお話は四蔵会長の頃から語り期待していたので夢が叶い嬉しゅうございます。

図らずも、私自身は県文化協会の顧問に推挙されてしまいましたので、微力を尽くす所存です。

文化は 社会のバロメーター

鹿児島県文化協会顧問

熊副 穰



半世紀の時の流れは、社会の変化

や人の価値観も移り変わる歴史の時間と空間です。そうした中で一貫して地域の文化と伝統を守り、精神の豊かさや発展を目指してきた文化協会の活動は地域社会の礎だと思えます。不肖・私が会長に就任した4年間は、国民文化祭の誘致、開催の時期と重なりました。誘致推進委員会の設置や県議会文化芸術振興議員連盟の大奮闘など、忘れられない歴史の一頁として思いだされます。

文化協会の活動は、地域で地道に活動する文化を愛する多くのの人々によつて支えられています。国と社会の品格は文化がバロメーターとも言われます。

なぜか、私たちの掛けがえのない社会の姿が目の前の損得に流され、ゆとりや豊かさが失われて行くように感じます。文化協会の役割が益々大きくなる時代ではないでしょうか。次の半世紀へ絆を深め頑張ろうではありませんか。

県民文化フェスタにかごしま2018

屋久島町文化協会事務局

安部 心也

10月とはいえ、鹿児島市内には43度角で陽光が注いでおりました。

屋久島から出港した高速船をタクシーに乗り換え、宝山ホールのファサードを見上げる頃には汗ばむほどです。船からご一緒したおなじく屋久島町文化協会の副会長T氏も額から湯気をあげています。

私の目に際立ったのは南さつま市の土踊でした。甲冑姿の二歳衆を先頭にして片手で捧げた浅い締太鼓と、大ぶりの鉦が続きます。単純な



拍子ではありませんが引つかかる裏拍のアクセントが組み合わさり、洗練された繰り返しに惹き込まれます。ご存知のとおり戦国時代に島津藩の武将が出陣のきわ、家臣に踊らせたのがルーツと云われておりますから、さぞ勇壮な演舞であろうと想像しておりました。そんな揣摩憶測に留まらぬ深く幽玄な世界。見た目の豪華さよりも精神的な剛健さを求めた武士の奥ゆかしさ。知らず知ら

ずのうち手には力が入り、高揚させられていることに気づきます。例年、旧暦6月には竹田神社に奉納されるとのことですので、夏の鹿児島へ渡ってくる理由がまたひとつ増えてしまいました。終幕の総出演者再登場による斉唱も圧巻であったことを書き添えて、筆を置きたいと思えます。

総合舞台芸能



県民文化フェスタinおおすみ2018

「おおすみ文化維新」

鹿屋市文化協会会長

福岡 力

平成30年11月11日13時より、鹿屋市文化会館において、「県民文化フェスタinおおすみ2018」を、開催し、約800名のお客様の来場をいただき好評を博しました。

おおすみ地区文化協会14団体が、力を合わせて取り組んだ模様を紹介致します。

プログラムは、二部構成としました。第一部は「民族芸能玉手箱」とし、垂水市文化協会「たるみずYOSA KOI桜輝楽社中」のよさこい、輝北町文化協会「輝北フォークダンス」、肝付町文化協会「高山本町八月踊り保存会」、串良町文化協会「Lakki☆Lakki(アロハルミコスタジオ)」吾平町文化協会「吾平中央麓地区そば切り踊り保存会」、大隅町文化協会「アロハルミコスタジオ」串良町文化協会有志による民踊でした。

第二部は「舞踊玉手箱」とし、南

大隅町文化協会「万寿美流、根占楠龍太鼓」、末吉町文化協会「春日流寿宝社中」、鹿屋市文化協会「若柳・和花扇流、三鐘流」、大崎町文化協会「若柳流かたばみ会」、志布志市文化協会「三鐘流竹の子会、有明魁伝太鼓、三線同好会」、錦江町文化協会「英流、三鐘流、鼓友会」1、2部合わせて、総勢200名の出演者でした。

ファイナーレは特別出演で鹿屋市明治維新150周年記念事業、「西郷どんと大久保どん」出演者約40名によるパフォーマンスで、大変盛り上げました。

なお、財部町文化協会は、都合により参加出来ませんでした。入場券販売で協力していただきました。

最後に県文化協会、鹿屋市、鹿屋市文化会館の皆様特別な御協力を頂きました。実行委員会一同深く感謝申し上げます。有難うございました。



県民文化フェスタ in おおすみ 2018

鹿屋市文化協会

おおすみ文化維新

第一部 民族芸能玉手箱	第二部 舞踊玉手箱
<ul style="list-style-type: none"> 垂水市文化協会 たるみずYOSA KOI 桜輝楽社中 輝北町文化協会 輝北フォークダンス 肝付町文化協会 高山本町八月踊り保存会 串良町文化協会 Lakki☆Lakki(アロハルミコスタジオ) 吾平町文化協会 吾平中央麓地区そば切り踊り保存会 大隅町文化協会 アロハルミコスタジオ 串良町文化協会 有志 一社 	<ul style="list-style-type: none"> 南大隅町文化協会 万寿美流・根占楠龍太鼓・春日流寿宝社中 末吉町文化協会 春日流寿宝社中 鹿屋市文化協会 若柳・和花扇流 大崎町文化協会 若柳流かたばみ会 志布志市文化協会 龍太鼓・大崎のこぶし 錦江町文化協会 英流・鼓友会 錦江町文化協会 三鐘流

平成30年 **11月11日**

時間 開場12:30 開演13:00

料金 全席自由1,000円(整理券無し)

場所 **鹿屋市文化会館** KANOKA Cultural Center

チケット販売所 チケットの購入については、大隅地区の各文化協会にお問い合わせください。(鹿屋市文化協会 Tel/0994-44-5115)

【主催】鹿屋市文化協会 【共催】鹿屋市 / 公益財団法人鹿児島県文化振興財団 【協賛】公益財団法人九州文化協会 【後援】鹿屋市 / 鹿児島県教育委員会 / 鹿児島市教育委員会 / 志布志市教育委員会 / 垂水市教育委員会 / 南大隅町教育委員会 / 肝付町教育委員会 / 串良町教育委員会 / 吾平町教育委員会 / 大隅町教育委員会 / 南大隅町教育委員会 / 鹿児島県教育委員会 / 鹿児島市教育委員会 / 鹿児島県新聞社 / 奄美新聞社 / 南海毎日新聞社 / NHK 鹿児島放送局 / MBC 鹿児島放送 / KTS 鹿児島テレビ / KKB 鹿児島放送 KYT 鹿児島読売テレビ / おおすみFest ネットワーク(かのや・きもつき・志布志)Fest たるみず / SOOCondFest / ノブエム鹿児島

鹿児島市芸術文化協会 第 44 回鹿児島市春の新人賞

今年度第 44 回鹿児島市春の新人賞は、音楽、舞踊、美術の分野から 17 名の応募がありました。

それぞれに実力や業績を持たれた応募者を厳正・公平に審査するため、専門分野の深い見識と芸術に対する広い視野を有する 10 名の選考委員で選考にあたり、舞踊の玉川智美さん、版画・デザインの中原未央さん、ピアノの山崎文乃さんの 3 名を全会一致で選出いたしました。

玉川さんはジャンルを越えた様々なアーティストとの積極的な創作活動を展開している点、中原さんは紙版画による新鮮な作品が商業デザインの世界からも注目される点、そして山崎さんはソリストの実力に加え伴奏者として共演者から厚い信頼を受けている点が、それぞれ高く評価されました。

今回の受賞者を含め新人賞受賞者総数は 174 名となりました。3 名の受賞者が、今回の受賞を契機とし、今後益々飛躍されることをお祈り申し上げます。



中原未央



山崎文乃



玉川智美

燃える地域文化

伊佐市市制十周年を記念した「伊佐市文化祭」は、文化協会の主催で大口・菱刈の 2 会場で、11 月 3 日に開催いたしました。

舞台部門では、日本舞踊や大正琴・和太鼓・民謡・カラオケ・レクダンス・フラダンス等、展示部門では、絵画・写真・生け花・書道・工芸など、各団体が日頃の研鑽の成果を披露しました。特に、大口会場の伊佐市文化会館には一千人近くの市民が入場し、伊佐の協会の舞台芸術等を堪能してました。

また、他地区の舞台芸能を市民に紹介する目的で、昨年度は伊佐市文化会館で「夏の芸能祭」を行いました。市外の本物の芸能として「米作り踊り」や「牛深ハイヤ踊り」と、文化協会員による日本舞踊やダンスなども披露され、詰めかけた観衆の皆さんは、迫力ある舞台芸能を十分に満喫されました。

伊佐市文化協会では、自らの文化芸術活動ばかりでなく、他地区の芸能活動を学び、さらに先進地の文化祭等の視察研修も行うことで、会員にとって魅力ある活動に取り組んでいます。



伊佐市文化祭



夏の芸能祭



西之表市文化協会

西之表市では、11月3日、4日の2日間、西之表市民会館に於いて市制施行60周年記念平成30年度第47回市民文化祭が開催されました。式典では西之表市文化功労賞の表彰があり永年にわたり文化の継承、指導に尽力された個人、団体に表彰状が授与されました。

今年文化祭に舞台、展示、実演部門と合せて30の団体、420名の参加です。舞台部門は市民会館ホールにて、日舞、管弦楽、混声合唱、箏、フラダンス等2日間で75のプログラムが披露され会場から盛んな拍手を頂きました。展示部門は、市民会館ホワイエにて、書道、短歌、華道、写真等7団体が出展、来場者は個性豊かな作品群を熱心に鑑賞していました。実演部門の茶道は、赤尾木城文化伝承館「月窓亭」にて表千家西之表支部によるお点前と点出しがあり、来場者に島特有の和菓子と薄茶がふるまわれました。又今回の市民文化祭に、ポルトガルヴィラドビスポ市との姉妹盟約25周年を記念して、「マリオネット」による公演もあり、

ポルトガルギターにマンドリン等観客は異国情緒あふれる楽器の演奏を堪能しました。これからも西之表市文化協会は、地域文化の向上発展のために寄与して参りたいと思います。



舞台部門小



展示部門小



実演部門小

燃える地域文化

長島町では、11月10日、11日の2日間、長島町文化ホールをメイン会場として第13回長島町総合文化祭が開催されました。

この総合文化祭の開催に向けては、9月より町文化協会を中心とした実行委員会を組織し協議を行い、各団体を中心に出品・出演の準備が進められました。

舞台発表が催された町文化ホールでは、日本舞踊やフラダンス、各学校による合唱や吹奏楽などが発表されました。口



ビーでは長島茶道部会により来場者へお茶のお点前を披露されました。

B & G 海洋センター体育館の展示部門では、地域や学校、団体から出品された書道、絵画、写真、短歌、手芸品、盆栽、華道などが並べられ、来場者の目を楽ませていました。

舞台発表と展示発表が行われた2日間、感性あふれる作品や発表が、本町の芸術の秋を彩っていました。

長島町文化協会

霧島市文化協会

第13回霧島市芸術祭「展示発表」を平成30年11月4日〜10日まで（7日間）開催しました。霧島市文化協会6支部から選りすぐれた作品を市役所市民ギャラリーに盛大に展示しました。

今回の特徴は、大輪菊や、万年青の出品があり会場を華やかな彩りで演出してくれました。しかし、毎日の給水は労力が大変で当番係の尽力により最終日まで頑張り、訪れる人々にひと時の潤いを付加できました。

一方、高齢化による会員減少は否めないが、会員相互の励ましに加え、作品を創る喜びと達成感が心の支えとなり、生涯学習が地域文化に灯りを照らし地域の活性に寄与していると実感しています。

（文責 内山竹文）



燃える地域文化

さつま町で2か月に一度開催される「ちくりん生活音楽隊」コンサートは、平成30年12月22日で第89回満15年になりました。竹林の町で生活をしながら音楽を。父親の古里に移住し、音楽教室を開いた若いピアノリスト夫婦が始めました。

プログラムはピアノ独奏・連弾が中心ですが、前半を町の音楽愛好家たちの演奏の場として使ってもらっています。今までにギター、バイオリン、お琴、尺八、独唱、合唱、ハーモニカなどたくさんの人たちが発表の機会を得ることができました。

ここまで長く続いた訳を考えてみますと、もちろん入場無料であること、会場が宮之城ひまわり館という町の中心部にある建物であること、偶数月にきちんと開催されるので自分の都合のいい月に気軽に足が運べること、そして何と云っても本格的なピアノ演奏が聴けるということでしょう。

12月のコンサート終了後には支援者の提供でお茶とお菓子のミニパーティーもありました。町の人たちの集いの場になっています。

（女性隊員 Y）



鶴田幼稚園の たなばたコンサートに出演



12月22日ちくりん生活音楽隊コンサート ピアノ連弾 小原夫妻



12月22日 ちくりん生活音楽隊コンサート

宮之城文化協会 ちくりん生活音楽隊

かごしま和紙工芸協会

最終回第21回鹿児島和紙工芸展を黎明館で、10月31日から11月4日まで、入場無料で開催しました。多くのご来場者をお迎えして、惜しまれつつ終了でした。深く感謝御礼申し上げます。

今回は、会員会友2点ずつ会場いっぱい！和紙絵画、和紙人形、和紙木目込人形、和紙製造工房で300点以上展示しました。

丁度おはらまつりの頃でしたので、100体以上の人形たちがいっしょに楽しそうに踊ってくれました。

かごしま和紙工芸協会は、今回の作品展を最終回として、会を閉じることを総会で決議しました。会員の高齢化は無理がきかなくなりました。県文化協会様には長い間ご後援をいただき、誠にありがとうございました。

塩満トヨ子名誉会長には、30年の長い間熱意のこもったご指導をしていただきました。活動場所は、主にサンエールでした。

12月19日おわかれ会もしました。和紙を愛する会員は、県内外でまだまだ和紙の魅力を伝えてくれることでしょう。なごり尽きな

くて七夕には又お逢いしましょうと笑顔のさよならでした。



平成29年12月29日
30周年記念パーティー

燃える地域文化

私たち「コール鴨池」は1978年（昭和53年）に鴨池公民館の自主学習グループとして結成され、昨年で結成40周年を迎えました。

現在、日吉武先生、ピアニストの加治ひろみ先生のご指導の下、30代〜90代まで幅広い年齢層の団員32名で、毎週水曜日10時〜12時に鴨池公民館で練習をしています。年間を通して、6月の県合唱祭・おかあさんコーラス九州大会、10月のおかあさんコーラス合唱祭白いうた青いうたフェスティバル、11月の鴨池地域文化祭などに参加しています。

昨年の8月には、全日本おかあさんコーラス全国大会（松山）の出場の機会をいただき、団員一同とても嬉しく励みになりました。私たちは歌うことが大好きで先生方の下でより美しくより豊かなコール鴨池のハーモニー、音色を目指して、団員一同心を一つに歌っていきたいと思っています。

ただ今、2019年6月1日（土）県民交流センターで開催される「40周年記念第16回定期

演奏会」に向けて練習に励んでいます。皆様のご来場を心よりお待ちしております。
(木協浩子)



薩摩川内市文化協会

「熱き國・薩摩」

芸能でつづる明治維新

薩摩川内市文化協会では、市文化課の委託を受けて、2018年6月24日、第13回薩摩川内市芸能祭を開催しました。

前半は各支部の芸能や甕島の郷土芸能の発表、後半に今年は明治維新150年にちなみ、『「熱き國・薩摩」 芸能でつづる明治維新』を特別企画しました。

出演者は、年少少女から80歳代までの幅広い年代層150名で熱演し、また西郷さんの愛犬「ツン」の縫いぐるみも登場、拍手喝采を浴びました。

今回は、特別企画の前に、国際文化交流の一環として、韓国のシニア女声合唱団もチマチヨゴリ姿でステージに上がり、観客を魅了しました。

この文化交流を契機に、2019年5月には、韓国昌寧郡との文化交流を進めることとしており、薩摩川内市文化協会は熱く燃えています。



フィナーレ「正調川内はんや節」



日舞「田原坂の美少年」



宮田棒踊り保存会「三尺棒踊り」

燃える地域文化

出水市文化協会日本舞踊部は、平成27年度の国民文化祭かごしま2015「日本舞踊の祭典」において、このために創作された「桜絵巻」を披露し、おかげさまで多くの方々に高い評価をいただきました。そこで、このような活動を一過性のものではなく継続的に取組みたいと考え、平成30年6月3日、出水市文化会館で、日本舞踊部員による舞踊会を開催いたしました。

だれでも気軽に日本舞踊に触れ、伝統芸能の魅力を知っていただける機会を提供することにより、出水市民の方々の文化活動への参加を促し、日本舞踊の継承・発展及び活性化に貢献すること、また、日本舞踊部員にとつては、発表することによって活動の励みとなること、更に、会員相互の交流や連携により意識や資質の向上を図ることを目的としました。

各流派の枠を超え、13団体による25演目を、伝統の古典舞踊と馴染みのある新舞踊を織り交ぜ、華やかな演舞を披露し御来場の多くの方々に大変喜んでいただきました。



出水市文化協会 日本舞踊部舞踊会

南種子町文化協会

11月2日文化祭・3日ふるさと祭りが開催され、南種子では例年ふるさと祭りの中で文化祭が行われます。

今年の本町出身のキングレコード挾間玉代さんが特別出演してください、たいへん盛り上がりしました。

また、新しいサークル2団体（2つ共ストリートダンス）が加わり、演芸の部は充実したものと成りました。

また、11月25日・屋久島で熊毛地区広域文化祭が開催され、南種子町から、展示部門が3団体、舞台部門も3団体が参加しました。

写真でご覧のとおり、2歳の子供をはじめに5人の子供が舞台にあがると、観客からたくさんあたたかい声援をもらい、ほほえましいタヒチアンダンスが披露できて大満足の舞台でした。

これからも年1回の種子島・屋久島、1市3町の交流会が続けられ魅力ある文化協会・交流会となるように取り組んでいきたいと思えます。



屋久島広域文化祭にて ベリーダンス同好会



ふるさと祭での文化祭 パッチワーク同好会



ふるさと祭での文化祭 しまこい南種子

燃える地域文化

歌劇「カルメン」

南日本音楽祭・鹿児島オペラ協会定期公演の歌劇「カルメン」が、平成31年3月10日（日）の午後二時から宝山ホールで行われた。

19世紀のスペイン・セヴィリヤ。連帯の生真面目な伍長ドン・ホセが、自由奔放な女カルメンの魅力に惑わされ、やがて恋に落ち破局に終わるまでを情熱的に歌い上げた作品である。

今回の公演は、小崎雅弘の指揮と馬場紀雄の演出で上演した。主な配役には、カルメンを宮原真紀、ホセを長誠蘭、ミカエラを瀬戸口美紀代、エスカミールヨを瀬戸口浩他で演じた。合唱は鹿児島オペラ協会合唱団と公募による合唱及び鹿児島オペラ協会少年少女合唱団であった。ダンスは、フラメンコ舞踊家の豊丸安美とニーニャ・デ・ドゥエンデ。それに管弦楽は、鹿児島交響楽団であった。

全幕日本語での公演で、背景に闘牛場を模したドロップ等が吊られ、それとともに、吉永好人の照明がセヴィリアの闘牛場の雰囲気盛り上げていた。

満員に近い入場者の多くは、情熱的なビゼーの音楽に満たされていたようであった。



鹿児島オペラ協会

文芸

俳句

鹿児島県俳人協会

第一一一回南日本俳句大会

平成 30 年 4 月 29 日

キャンセ 8 階ホール

【鹿児島県知事賞（大会賞）】

風に会ふ少女の鎖骨夏始め
松木蘭かつ子

【鹿児島県俳人協会賞】

霾や余白の多き時刻表
池田 貴之

【南日本新聞社賞】

白もくれん少年の自我脱ぐように
假屋園いく子

【選者特選】

淵脇護選
風に会ふ少女の鎖骨夏始め
松木蘭かつ子

青野迦葉選

春風や蝶ネクタイの甲東像
坂本 啓子

高岡修選

空へ咲く辛夷に涙なかりけり
用貝ひろみ

折田幸弘選
倭寇江の波より生れて燕来る
寶來喜代子

松下けん選
堀口 良子
遊泳の赤子よおいで花の下

上迫和海選
中村 玉海
冬木立ランプの宿に泊まりをり

山之内赫子選
藤岡香代子
あたたかやライバルの肩抱き寄せて

丸山眞選
瀬角 龍平
山桜手に発掘の青磁片

中間秀幸選
中尾 帆遥
群青の海を背に初桜

瀬戸清子選
長崎 文郎
天空の光となりて鶴引けり

【優秀賞】

土雛やハンカチほどの緋毛氈
池江 和

老鶯のこだま届かず拉致の海
鮫島 寛山

余花といふうす絹ほどのひかりかな
今給黎雨音

花冷や眼帯の闇持ち歩く
大川畑光詳

初産の深き眠りや春の月
早水 秀久

無愛想なピエロの素顔花の昼
山下 恭子

指に残る揚羽の鼓動空蒼し
大久保 寛

連句

連句カメラ

歌仙「菊の花」

西郷どんの想いゆかしき菊の花

天吹（テンブク）の音に動き出す秋

轆轤蹴る窓の月には雲もなし

全粒粉の麺麴の膨らみ

腹すかしおとり刀で駆ける京

河原に集う女鷹匠

ウ

腰痛も少し和らぐ日向ぼこ

猫の尾ゆらり壁の向こうに

蔵町の古絵図に知らぬ橋の名も

妻敵（メガタキ）討ちのひそむ暗闇

二組の布団の並ぶ旅の宿

連れはリュックを背囊と言ひ

冴ゆる夜の月を肴にあふる酒

大噓してみんな忘れる

興信所瞬き多きA I に

密命帯びて敵地潜入

よかにせと招かれ座る花の宴

蛙であそぶ下戸のとのさま

ナオ

春昼の粗目かすてら厚く切り

お手をどうぞとチャチャチャを好み

銭湯にこむらがえった脚を揉み

小鏡隠し小咳コホンと

十字架の立つ山上に麦萌えて

優しく頬を撫でていく風

真珠採りの唄聞こえるや瓶の船

あしたはいない君たちのママ

原口 泉

佛淵 雀羅

平林 柳下

本田 紅鯨

陶山 六寸

松澤 龍一

馬渡 光子

浅岡 照夫

浅賀 丁那

西川 菜帆

守谷 沙舟

野村 路子

逆瀬川 屯

石見にゃん子

菊村 鈴代

木場田風犀

原田 小波

雀羅

林

紅鯨

翠哥

龍一

六寸

柳下

光子

菜帆

丁那

望比岬哭いて崩るる春怒濤
藤元 睦子

父母遠し家伝の粽太く結ぶ
蘭 孝湖

街燈のゆらぐ憲法記念の日
川崎 伸子

巢燕は課外授業の子を虜
内藤美づ枝

旅先に着く頃晴れて山笑ふ
有園すみえ

清明や補聴器外す父の黙
川野 順子

第四九回南日本女流俳句大会

平成30年10月14日

キャンセ8階ホール

【大会賞】

方言にのこる敬語や生御霊
川南 清子

【南日本新聞社賞】

地図に無き父の戦地や終戦日
阿久根保代

【優秀賞】

棟上げて嫁来るうわさ豊の秋
藏園 弘子

鳥賊干して夕日を吊す島の風
藤元 睦子

四股伸ばす三千グラムの昼寝覚め
上 レイ子

いつよりぞ夫に頼られ走り蕎麦
島田みどり

まつすくな少女の視線沖繩忌
青野 優子

語れずに生きて米寿や原爆忌
角屋敦昭子

点字打つ窓に親しく蜻蛉来る
本村 淳子

水打つて将棋教室子らを待つ
内藤美づ枝

原爆忌一つ覚えの鶴を折る
上野ミチ子

琵琶ひくや薩摩上布に膝折りて
山之内赫子

【選者特選】

青野優子選
沖 弘子

昨日になき新涼の庭を掃く
板坂良子選
本村 淳子

点字打つ窓に親しく蜻蛉来る
瀬戸清子選
上野ミチ子

原爆忌一つ覚えの鶴を折る
中間恵子選
木村 いく

夫選りし盆提灯を夫に吊る
下原培子選
増永 教子

秋澄むや少年の眼は宙を抜く
西村セツ選
川南 清子

方言にのこる敬語や生御霊
小川沙良選
内藤美づ枝

水打つて将棋教室子らを待つ

シナモンはいつも涙の味がする

奈良桜井の尼寺の四季

月明に鳥目覚めて私語ひとつ

いざ飛びたたむ霧の動かば

ナウ

連歌にはもつてのほかのおもてなし

円空仏の笑まう床の間

いつよりか丸まって寝る癖がつき

母の背中の揺れるぬくもり

見上ぐれば花一面の薩摩富士

立てたる画架に風ひかる海

路子

沙舟

照夫

屯

伊地知義子

鈴代

にゃん子

小波

風犀

雀羅

平成三十年七月二十八日 起首

平成三十年九月二十一日 満尾

連句は「海図のない航海」に喩えられます。前の句に次の句を付けるとき、あらかじめの設計は何もなく、前句を読んで思いついたことを自由に、五七五あるいは七七で応えていきます。言うなれば、ジャムセッションの即興精神で、言葉やイメージをころがしていくところにスリルと面白みがあります。即興演奏にも最低限の約束があるように、連句にも「式目」とよばれるルールがありますが、日本人の世界観や美意識が凝縮されています。時にわずらわしくも感じられますが、連句を遊びながらいつの間にかマスターしてしまうのが理想です。つねに「現代の詩」である連句には、松尾芭蕉のころを熱くした「不易流行」が息づいています。掲載作品はメール参加の連句付合いで、市内だけでなく全国各地、ドイツのケルンからもご参加いただきました。

(佛淵雀羅)



山下久代選 増永 教子

白百合や正しさのみを孕みをり

寶來喜代子選 山之内赫子

琵琶ひくや薩摩上布に膝折りて

山之内赫子選 島田みどり

いづよりぞ夫に頼られ走り蕎麦

第一二回南日本俳句大会

平成30年11月23日

キャンセ8階ホール

【鹿児島県知事賞(大会賞)】

藤元 睦子

咲くやうに風呼ぶやうに鳥賊を干す

【鹿児島県俳人協会賞】

外園 千鶴

介護の灯落とし夜長の灯を点す

【南日本新聞社賞】

東 いつ子

独りの灯消してひとりの虫の闇

【鹿児島市長賞】

高岡 修

肩ぐるま子を秋空の中に容れ

【鹿児島県教育委員会賞】

窪見 れい

豊かなる土偶の胸や小鳥来る

【鹿児島市教育委員会賞】

五反田加代

焼印を臂に岬の馬肥ゆる

【鹿児島県俳人協会奨励賞】

奥 まや

コスモスに終末論のなぐさめを

【選者特選】

濱之上九紫

命ある限りは男鬼火焚く

【選者特選】

松野下弘子

終戦忌ソロモンの地に果てし兄

【選者特選】

奥 まや

高岡修選

コスモスに終末論のなぐさめを

【選者特選】

中間 恵子

松下けん選

手話の子と父に银杏散りやまず

【選者特選】

岩井 三葉

上迫和海選

【選者特選】

藏菌 弘子

こぼれ萩折り目古びし城下絵図

【選者特選】

丸山眞選

【選者特選】

【選者特選】

瀬戸清子選 垣内 静香

ありなしの風に落葉のささやける

中間秀幸選 五反田秋夫

汀線の弓形白き晩夏かな

第一二回南日本俳句大会入賞作品

平成30年11月23日(金)

鹿児島市勤労者交流センター

【優秀賞】

上坪 満代

風に見え風に隠れて葛の花

南洲の流滴の磯を月照らす

汀線の弓形白き晩夏かな

こぼれ萩折り目古びし城下絵図

伸び一つして交代の見張鴨

鷹渡る高天原を開け放ち

晩学の鉛筆削る良夜かな

花野ゆく小さき母の赤い靴

庄内柿南洲墓地の雨に照る

千両の一枝定まる黒薩摩

主張せぬことに徹して吾亦紅

月天心母の寝息を確かむる

寶來喜代子

棕櫚剥ぐや太平洋の風の中

秋夕べ「城山」語る薩摩琵琶

秋思ふと緩びし指輪まさぐりぬ

手話の子と父に银杏の散りやまず

終点も始発も花野汽車ごっこ

流星やアウシユビツツに刻む文字

鳳仙花母には告げぬわが病

クレヨンを一色足して小鳥来る

白桃の妬心のやうに核を抱く

寝かされて案山子の空の無限大

第五十三回南日本新春俳句大会

平成31年1月6日

キャンセ8階ホール

【鹿児島県俳人協会賞】

大旦たつぷり満たす飼葉桶

【南日本新聞社賞】

凧の糸少年しかと進路決む

【優秀賞】

地球儀の片側暗し初明り 大平 正通

百歳の賀状の筆の躍動す 中村 裕人

凧の糸真澄みの空を引き寄する 淵脇 護

風花やひとひらほどの母の幸 藤元 睦子

胎の子のボンとひとけり初笑ひ 山内 幸子

覚え立ての漢字の跳ぬる賀状かな 伊地知いつ子

獅子舞に参道の列乱れけり 下松 武子

研ぎ瘦せの鎌の柄磨く二日かな 青野 迦葉

【選者特選 (評議員)】

淵脇護選 安楽与喜子

瓦斯の火のはなびら青き淑気かな 山田 昌代

青野迦葉選 山田 昌代

弾初や余命宣告受けし日も 山田 昌代

折田幸弘選 藏蘭 弘子

霧囲気が好き人が好き初句会 藏蘭 弘子

松下けん選 脇 炎

凧の糸少年しかと進路決む 脇 炎

中間秀幸選 大川畑光詳

獅子舞の耳いききと目覚めけり 大川畑光詳

瀬戸清子選 大平 正通

地球儀の片側暗し初明り 大平 正通

山之内赫子選 中村 裕人

百歳の賀状の筆の躍動す 中村 裕人

【選者特選 (幹事)】

徳田正樹選 青野 迦葉

取りとめし命にほのと初明り 青野 迦葉

脇炎選 中村 裕人

百歳の賀状の筆の躍動す 中村 裕人

山下久代選 奥山 和子

読初めや栞の先へ旅をする 奥山 和子

長柄英男選 山下 義照

薩隅を統ぶる桜岳初苗 山下 義照

末永一雄選 青野 迦葉

取りとめし命にほのと初明り 青野 迦葉

四元幹選 上 レイ子

寶來喜代子選 淵脇 護

大旦たつぷり満たす飼葉桶 淵脇 護

俳句

日置市文化協会連絡協議会

「ひおき文芸賞」入賞作品

【最優秀賞】

物忘れ認め合ふ友居て涼し 遠矢 美枝

【優秀賞】

重陽や夢の一つの白馬超え 瀧口ルミ子

羅漢仏亡父重ねて秋野行く 徳田 桂子

やまがわ俳句会 指宿文化協会

噴く山を嵌めし錫門菊白し 迫田 克子

未来見て西郷どん飛び滝高く 田村 幸子

急ぎ足急がぬこころ秋の草 宮田 教子

さつま俳句会 さつま町文化協会

秋涼し靴はきかえてウオーキング 池田みずえ

法人へ委ねし代田そつと見る 高嶺 虎男

蒼天に広がるおうちひな巢立つ 三浦 哲郎

川柳

いちき串木野市文化協会

気が付けばいつしか抜いた父の歳 萬福 平次

参観日手は挙げたけど答えない 石野 弘人

長生きは望まないけど葉飲む 満留 昭子

【最優秀賞】

【優秀賞】

太鼓踊い下手ない頑張つ村興し 宇都 荐

仁王立つ西郷どん案山子田を見張つ 益満 富治

リモコンをテレビじゃ無して嬶け向けつ 東中 清隆

いちき串木野市文化協会

革靴で収穫加勢ん街の婿 津曲とつこ

井之上 一洋
 ひんねどつねこ
 昼寝時猫ん欠伸が女房け移つ
 塩屋 寿音
 つきや出来ん匂が教すい盜焼耐

渋柿会宮之城支部

さつま町文化協会

中間紫麗 (貞美)
 そどで
 其ん土台で化粧やち言うたや叩やされつ
 楠八重 溪流 (英雄)
 すだも無駄狙た娘御あ亭主持つ

桑元行水 (行弘)
 甲子園彼ん一球ん後悔い泣つ
 山下千舟 (千正)
 げんこつ俺が失敗や焼耐ん沙汰

詩

文芸誌「天秤宮」

梅雨の晴れ間

宇宿 一成

空地の草むらは
 上がったばかりの雨粒で
 膨らんでいる

ラカンマキの葉を足掛かりに
 巣を張っている蜘蛛

路肩で蛙が跳ねている
 水浸しの風は鳥の声を含み

ブロック塀にちいさな
 カタツムリは這い出し

カラスアゲハ
 陽射の罫をくぐるように
 遠い火山の霞む稜線を越える
 ススミの草陰で仔猫が
 鳴いている

前足を引き摺りながら
 母ネコが来て
 のぞき込む私を牽制する

ブーゲンビリア

前田 勉

ピンク
 紫が混ざっている
 群生する強さ
 深い闇を形づくり
 その色がネオンのように
 ジャングルの獣を誘う
 神聖な建物の壁を覆いつくし
 絡まるブーゲンビリア
 衝動的に
 その中に肩まで腕をつっこんだ
 無数の棘が腕に食い込み
 引っかき傷から血がにじんだ
 腕の先の 指先に触れた
 何とも言えない
 めめめめめとした誘惑



短歌

日置市文化協会連絡協議会

「ひおき文芸賞」 入選作品

最後かな古希の祝いの新車の香秋風運ぶ夫の出勤

益満 和子

峡短歌会

肝付町文化協会

母の忌の巡りてはやし墓の上に白き椿の花一つ落つ

月精 薫

つくばいの満月すくい洗う手に昼間のつかれしばし忘るる

城戸内利子

ときかけて月に返る日待つらむか木の葉ふりつむいちよう並木道

伊藤 祐子

渋柿会

手に受けし車運転卒業書安全一つ証となさむあかし

中村 操

移りたる緩和病棟くれなるの悲しみ降り来て桜散りぼふ

川添むつ子

来たる世を生きて行かむとこぶし挙げ泣くみどり児の産声強し

圖師 たつ子

創立50周年記念 鹿児島県文化協会通常総会



日時 2019年6月8日(土)
12:00~16:50



会場 かごしま市民文化ホール
4階

11:30

受付開始

12:00

開会のことば

14:40

芸術鑑賞

鹿児島県尺八連盟

内村様 他

鹿児島県箏曲会

木元様 他

15:20

シンポジウム

パネルディスカッション

基調講演 「鹿児島が世界に誇る自然と文化」

原口 泉 鹿児島県文化協会会長

【コーディネーター】 東川隆太郎(かごしま探検の会 代表理事)

【パネラー】 1. 霧島市文化協会 会長 永山 作二

2. 奄美市文化協会 会長 山元 孝子

3. 屋久島町文化協会 会長 野口真由美

【アドバイザー】 原口 泉 鹿児島県文化協会会長

16:50

閉会



50周年
記念式典
交流会

会場/サンロイヤルホテル

開会/18:00

芸術鑑賞/地域別参加希望者芸能発表予定

会費/5,000円

県民文化フェスタ2019について

県民文化フェスタ in ほくさつ2019

日 時／2019年9月1日（日） 13：00～15：30

場 所／薩摩川内市川内文化ホール

舞 台／舞台芸能祭典

入場料／1,000円

県民文化フェスタ in かごしま2019

**舞台
部門**

日 時／2019年10月6日（日） 13:00～15:30

場 所／宝山ホール

舞 台／舞台芸能祭典

入場料／1,000円

**展示
部門**

日 時／2019年10月6日（日）～10日（木） 13:00～15:30
（但し、10月10日（木）は作品撤去のため16:00まで）

場 所／宝山ホール アートギャラリー

入 場 料／無料

※一部内容は変更になる場合がございます。

平成30年度の受賞

第70回日本放送協会放送文化賞

2019年3月7日、この度当文化協会会長原口泉が、
第70回日本放送協会放送文化賞を受賞しました。

鹿児島県芸術文化奨励賞

音楽部門で、「桐の音楽院」の
箏曲家 梶ヶ野亜生氏が受賞しました。

「薩摩民謡シアター」の御提案

鹿児島県文化協会 理事

鹿児島市芸術文化協会 理事

洋画家 岩田 壽秋

2020年ウオーターフロント地区ドルフィンポート商業施設借地契約満了が迫っています。先の知事の記者会見にて全体像の方向性が示されましたが、県外からのお客様を本県らしくおもてなしするために、施設全体の一角に食事と芸能鑑賞が同時に楽しめる小規模シアター設置を提案いたします。

本敷地は天文館繁華街に隣接し、同時に雄大なロケーションの望める錦江湾・桜島を控えています。県外からのお客様をお迎えするには絶好の景観環境です。また市電延長計画も伝わる中、桜島とのアクセスを一体的に整備することで一層の魅力ある計画が可能です。

加えて本県は南北600kmの広大な面積と長さを保有し、文化的にも多様な方言や伝統芸能や祭り、文化行事、文化芸能が息づく稀有な背

景を持ちます。

また食文化も多彩で、畜産県であり、海洋民族でもあり、産直の新鮮な食材が豊富に四季を通じて提供できます。

これらの伝統文化と料理を同時に提供する民間のシアター新設が望まれます。

全国的には四国の阿波踊り館や沖縄国際通りの琉球エイサー各館などが相当します。

具体的演目は、島唄、蛇三線、ごったん、天吹、薩摩琵琶、示現流、田の神踊りなどで、料理としては、芋焼酎、さつまいも、きびなご、かつお、黒糖焼酎、ごく早生野菜、黒豚料理、などでしょう。

県民全体の文化的向上と景気効果の一助となることを祈念申し上げます。



祝 県文化協会創立50周年 肝付町文化協会

〒893-1207 肝属郡肝付町新富112

祝 県文化協会創立50周年



青葉印刷株式会社

〒890-0045 鹿児島市武一丁目11番17号
TEL 099-251-1821 FAX 099-251-2144



山下三尺棒踊り(阿久根市)



上野猿の子踊り(指宿市)



みやんじょ五ツ太鼓(さつま町)



下名疱瘡踊(始良市)

郷土の伝統行事や
伝統文化の保存継承を



西俣八丁杵踊り(鹿児島市)



大和浜棒踊り(大和村)



源太郎踊り(西之表市)



王子町鉦踊り・銭太鼓(鹿屋市)



鐘踊り・種子島踊り(長島町)



八月踊り(瀬戸内町)



上山野棒踊り(東串良町)

掲載の郷土芸能は、
平成30年度の
助成団体です。

伝統文化の保存・継承に係る助成事業

1 目的

県内の郷土芸能や伝統行事など伝統文化の担い手の育成・確保に取り組む活動に、助成を行うことで、貴重な文化遺産を保存・継承し、地域の文化振興に資することを目的としています。

2 業務の委託

公益財団法人鹿児島県文化振興財団の委託で鹿児島県文化協会が実施しています。

3 助成対象団体(次に掲げる全てに適合する団体が対象です。)

- ・ 県内に住所または活動の拠点を有する団体
- ・ 郷土芸能や伝統行事など伝統文化のうち消滅のおそれのある団体
- ・ 郷土芸能や伝統行事など伝統文化の担い手の育成・確保に取り組む団体
- ・ 国及び地方公共団体やこれに準ずる団体、営利団体、政治団体、宗教団体、並びに国及び県指定文化財は対象外です。

4 助成対象経費

- ・ 講習会・成果発表に係る経費
- ・ 衣装・道具の購入及び修理に係る経費
- ・ その他担い手の育成・確保のための活動に要する経費

5 助成金の額

1 団体当たり10万円が上限で、助成総額は予算の範囲内です。

6 助成金交付申請書提出先, 問合せ

提出先:各市町村を經由し県文化協会へ 問合せ:各市町村文化行政担当課, 県文化協会



迷い込んだのは
大きくなったり、
小さくなったり、
不思議な世界。

2019吹上浜
砂の祭典
Sand & Flower Festa in Minamisatsuma
みんなも体験しよう!

リトルモンスター
-Change The World- の世界

2019.5/1▶26
【5/4は休園日】

ゴールデンステージ	セカンドステージ
5/1⑤・5/5⑥ 9:00～21:00	5/7⑦・5/26⑧ 9:00～17:00

会場
鹿児島県南さつま市金峰町高橋
砂丘の杜きんぽう内特設会場
その他関連イベント/南さつま市内各地域

入場チケット料金

	ゴールデンステージ		セカンドステージ
	当日	前売り	当日
大人	1,000円	700円	500円
小・中学生	500円	400円	300円

☐チケット販売
※ハイパス/ファミリーマート/ローソンチケット【コード: 32468】
チケットが売/セブンイレブン/セブンイレブン【コード: 325045】

名水・銘酒を生む世界自然遺産の島「屋久島」より 本格焼酎・薩摩焼酎《三岳》

日本名水百選の清冽で豊かな水は、無数の渓谷や、滝となつて神々しい自然景観を形づくり酒造りに欠かせない「生命の水」として《三岳》のまろやかな味わいをつくり出しています。

鹿児島県産さつま芋を原料とし、原生林に濾過された名水で仕込む本格焼酎「三岳」は、独特の風味、飲み口よさ、爽やかな酔い心地です。



三岳 (25%)
1,800ml



原酒 (39%)
720ml



地理的表示薩摩マ-クは、地域ブランドの証です。

おいしい焼酎の飲み方

- お湯割り ・最初にお湯、次に焼酎を注ぐ。
- 割合は焼酎6対湯4か5対5。
- 水割り ・割合は焼酎6対水5対5。
- おいしい水を厳選する。(軟水)
- 水で割り、一晩以上寝かせる。(前割)
- ロック ・透明でおいしい水を使う。
- 大きめの氷を3～4個入れる。
- 氷にぶつけるように焼酎を注ぐ。

〒891-4311

鹿児島県熊毛郡屋久島町安房2625-19
三岳酒造株式会社



積水ハウス

KTS **イズ・ロイエ** 展示場

OPEN 4/20 SAT

AM10:00~PM5:00

事前予約や詳細はこちらから

webサイト



*外観CG/パースは、図面を基に描き起こした完成予想のものですが、外観や植栽などは実際のものと異なります。*外観の写真はイメージです。

WEBから事前にご予約の上、ご来場いただいた方に“オープン記念プレゼント”をご用意しています。

お問い合わせは

(一社)不動産協会会員 (公社)首都圏不動産公正取引協議会加盟 宅建業免許・国土交通大臣[14]第540号
建設業許可・国土交通大臣許可(特-般-27)第5295号



積水ハウス株式会社 鹿児島支店

〒890-0062 鹿児島市与次郎2-4-7(住まいの情報館) ☎(099)206-3111 kagosimall@gem.sekisuihouse.co.jp 0120-155-117

KTSイズ展示場 ☎(099)263-7321

〒890-0062 鹿児島市与次郎2-4-43(KTS住宅フェア内) kanazawa009@sekisuihouse.co.jp